

研究室名	<b>植物生理学研究室、先端機器分析センター（兼任）学会発表</b>
------	------------------------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

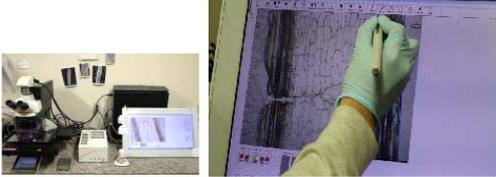
発表時期	2019年
------	-------

学会名	日本植物学会第83回大会
-----	--------------

演題名	レーザーマイクロダイセクションを用いたトランスクリプトームとホルモノーム解析
-----	--

発表者	○朝比奈 雅志1,2, ※中野渡 幸1, ※山田 一貴1, 湯本 絵美2, 佐藤 忍3 (1帝京大・理工・バイオ, 2帝京大・先端機器分析センター, 3筑波大・生命環境系)
	○; は発表者、※; 卒研究生または大学院生、アンダーライン; 本学教職員、研究員)

内容	<p>東北大学川内北キャンパスで行われた日本植物学会第83回大会において、理化学研究所・環境資源科学研究センターの豊岡公德博士と共同で企画した「最先端可視化技術による植物解析～見る顕微鏡から捉える顕微鏡へ」と題するシンポジウムを実施した。</p> <p>近年、顕微鏡技術の発展と装置の高度化により、組織・細胞の構造や変化を、3次元または4次元的に捉えることが可能となってきた。さらに、遺伝子発現やタンパク質、植物ホルモンをはじめとした代謝物の様々な可視化・分析手法を用いることで、微細構造の観察と同時に細胞内での分子の動きを直接捉える試みが進められている。本シンポジウムでは、最先端可視化技術を用いた時空間的解析を進めている研究者が集い、これらの技術的基盤、ノウハウ、応用例などを紹介するとともに、今後の課題について議論した。</p> <p>発表では、私立大学戦略的研究基盤支援事業、科学研究費補助金、私学事業団経常費補助金特別補助（筑波大学との大学間連携等による共同研究）による支援を受けて行った、レーザーマイクロダイセクション法を用いて回収した微量組織からのトランスクリプトームとホルモノーム解析の取り組みについて報告した。</p>
----	--

内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>レーザーマイクロダイセクション（LMD、LCM）法</b></p>  <p style="color: red; font-weight: bold;">組織標本の特定の細胞または特定領域を切り取る手法</p> <p>ゲノミクス、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタボローム、培養細胞クローニング等、幅広い応用が可能。</p> </div> <div style="width: 50%;">  </div> </div>
----	---